

## マキノスクールが提唱する持続可能な農業・農村開発とは...

農村の住民たちが未来に向かって希望を持ち続け、「神を愛し、人を愛し、土を愛し」、平和な共生社会を実現することです。そのための土台となる、持続可能な農業・農村開発を学び、異文化・相互理解を深め、争いを起こさない平和な共生共存の実現を目指します。



具体的には以下の点に重点を置いています。

- \* 自然環境や健康を害する農業を否定し、総合的な環境保全型農業を目指す
- \* 地域内で再生可能な資源の使用を促進する
- \* 経済的生産ができる農業を目指す
- \* オルタナティブ・マーケティングの推進・開発を行う
- \* 農民の統合的収入の向上を促進する
- \* 安全で健康な食べものに対する消費者の認識を高める
- \* 有機農業組合の運営強化を目指す
- \* 女性の社会参加と社会的地位の向上を目指す
- \* 農村における普及教育を促進する



野外教室での集会



日本人学生との協働作業

## 応募資格

- 入学時に満18歳～45歳であり、国際協力、農村開発に興味がある高卒以上の男女。
- 学生の場合、1年間に休学できる人。
- 英語やヒンディ語を学ぶ意欲のある人。
- 文化の異なる人たちと共同生活をする意思のある人。
- 講義のみならず実習、農作業に積極的な人。
- 心身ともに健康な人。

## コース期間

- 本コース 2025年7月7日より2026年3月20日
- 特別英語集中講義（2週間）2025年6月23日から2週間程度。既に、英会話ができる人はこの講義は必要ではありません。

## コース費用

- 2025年度の学費は750,000円です。学費には、寮費、一日3回の食費、授業料、特別英語集中講義、入学金、空港からの送迎、インド国内研修旅行費用、月500ルピーの小遣いが含まれます。
- 日本～インド間の往復渡航費、学生ビザ取得費、海外旅行保険は自己負担となります。

## 申込期限

- 入学願書、その他の必要書類は、2024年12月31日までに提出してください。
- 入学願書は下記のメールにて **申請書** を入手し、Microsoft WordかPDF形式で記入のうえ、同じメールアドレスに送付してください。
- 入学合格通知を受け取った方は3月31日までに所定の口座に全額を振り込んでください。



食品加工の実習

お問い合わせ E-mail: [recruitment@ashaasia.org](mailto:recruitment@ashaasia.org)  
HP: <http://www.ashaasia.org/>  
TEL 0287-47-7840 (日本) 担当 (三浦)



多様な社会で、食べもの、農村、共生について共に学んでみませんか！

[日本人学生用] 2025年度版

持続可能な農業・農村開発コース  
Special Course in Sustainable Agriculture and Development (SCSAD)



山岳地帯での研修

サム・ヒギンボトム農工科学大学  
継続教育学部(マキノスクール)



Makino School of Continuing & Non Formal  
Education (MSCNE)

Sam Higginbottom University of Agriculture, Technology & Sciences  
(SHUATS), Prayagraj, U.P. 211-007, INDIA

Phone: 0532-2684305 Fax: 0532-2684306

お問合せ : Email: [recruitment@ashaasia.org](mailto:recruitment@ashaasia.org)  
HP: <http://www.ashaasia.org/>



# 現場、実践、学び

## コースの目的

農村の草の根レベルで持続可能な農業・農村開発に従事する献身的な農村リーダー、NGOワーカーを育成すること。

## コースの基本方針

本コースは、上記に述べた目的のもと、以下の2つの専攻に分かれています。

- 1) **持続可能な農業専攻**…有機農業を軸とした、野菜・作物栽培、小規模畜産、マーケティングなどを中心に知識・技術を学ぶ。
- 2) **農村開発専攻**…農村生活改善の為に必要な、栄養、農村保健、食品加工、および収入向上などを中心に知識・技術を学ぶ。

学習形態は、「座学」「実習」「総合的成長を促す学び」「特別カリキュラム」の4つに分かれています

## 継続教育学部(マキ/スクール)とは



マキノスクールは、インド・ウッタルプラデシュ州プラヤグラージ(旧アラハバード)県にあるサム・ヒギンボトム農工科学大学にある学部です。1976年、牧野一穂博士が、キリスト教の精神に基づきながら、農民のための実践中心のプログラムを始められ、その功績により、2001年に大学の継続学部として認められました。現在はインドや近隣諸国の農村・農業開発に従事するワーカーの育成、プラヤグラージ県の農村を中心に、持続可能な農業・農村開発、女性の地位向上、母子保健、収入向上などの開発事業を行っています。

(学部長兼事業統括責任者 三浦照男)

## カリキュラム

「参加型」「Learning by doing—実践に基づいた学び」「統合的な学び」「学び合い」を重視しています。

### 持続可能な農業専攻

有機農業/土壌/植物防疫法/稲作/栽培養魚/養鶏/園芸など(座学)/農業実習(作物・野菜の栽培/炭作り/木酢液作り/農業微生物/自然害虫除去)/個人プロジェクト/その他



有機野菜栽培・家鴨/水稲同時作



キノコ栽培

## 主な共通の学び

### 座学

有機農業/小規模自然畜産/開発論/農村プロジェクト運営/協同組合マネジメント/その他(コンピューター・英語など)



座学、少人数での濃厚な学び



SCSAD週間計画を立てる

### 特別カリキュラム

調査/NGO・施設見学/スタディツアー/特別イベント運営・参加(スポーツデー、Food Fair/国際交流、クリスマス企画等)



山岳地農村地への研修旅行



農村調査をする日本人学生

### 農村開発専攻

食品加工(小麦粉・食肉・野菜・果実・大豆加工/瓶詰め/パッキング/食品保存)/農村保健/健康調理/家庭菜園/協同組合ショップ運営補助/農村調査/その他(裁縫技術基礎など)



市街地での直接販売



有機農家の訪問

### 実習

基礎的な有機農業技術/キノコ栽培/自然養鶏/卵の孵化/農村収入向上プロジェクト(石鹼作り/スクリーン印刷)/商品開発



学生が作った食品を販売



豆腐製造実習

### 個々の総合的成長を促す学び

リーダーシップ/キリスト教理解/イベント主催・参加/責任やアカウントビリティを身に付ける/共同生活を通して学びを得る



クリスマス交流プログラム



卒業前プレゼンテーション